

第 44 回 セルフケア事例検討会 レポート

平成 29 年 10 月 28 日に福島県立医科大学附属病院心身医療科さんから事例を提供していただき、医大看護学部にて今年最後の事例検討会を開催しました。参加者は 27 名で、病院で勤務されている方、訪問看護をされている方など、さまざまな方々に参加していただくことができました。

ミニレクチャーでは「頓服薬与薬に関わる精神科看護師の判断とケア」について看護学部の田村よりレクチャーをいたしました。精神科看護師として「頓服薬の与薬」は日常的なケアではありますが、その判断の仕方や対応のあり方について疑問に感じている方々も多いと思います。参加者からも、「頓服薬の与薬については基準がなく、スタッフそれぞれの判断にゆだねられていること」「患者から頓服を希望されたら、すぐに準備することに疑問を感じていた」などの声が聞かれていました。レクチャーを通し、「頓服薬与薬の際に患者さんとのやり取りを大切にすること」「頓服薬の与薬のアセスメント、方法をもう一度振り返り、効果的な与薬ができるよう関わっていきたい」など、日ごろのケアを見直すきっかけとなったという意見が聞かれました。

事例検討会は、精神症状が不安定で要求が多く対応に困っている事例を提供していただきました。要求が通らないことで暴言、怒声などの不穏がある患者さんでしたが、どのようにすれば落ち着いて生活できるか、退院するためにはどんな関わりが必要かなど、心身医療科病棟全体で常に検討し向き合っている姿がうかがえました。それぞれの病院においても共感できる事例であったため、さまざまな角度から患者さんの全体像や関わりを話し合うことができました。また、訪問看護の視点から病棟看護の視点とはまた異なる意見をいただけ、幅の広いより深い意見交換が行うことができました。どのような環境で育ってきたのか、また問題行動と思われる行動の背景に何があるのか、また退院して生活するのに必要な力とはなんであるのか、そのようなことを確認できた会となりました。

